

センター試験の 分析と対応

渡辺 聡

東京学芸大学附属高等学校

Ⅰ 2007年度センター試験の分析と対応 [筆記]

1. 全体的な傾向

今年のセンター試験 [筆記] でもコミュニケーション能力と読解力を試す出題がされたが、出題形式に大きな変化があった。大問数に変わりはしないものの、小問に新たなタイプの問題が出題された。設問数は全体で50から53に微増し、それに伴い配点も若干変わり、問題、設問全体の総語数が2割ほど増加したのも注目すべきである。この量を80分でこなすためには、正確かつ迅速に問題を解くリズムが必要である。例年通り基本的な問題が多く、難問はない。全体として昨年度より易化し、平均点は昨年より約4.5点高くなった。しかし、例年同様、まぎらわしい選択肢がいくつかあるので油断は禁物である。

コミュニケーション能力の問題としては、

第1問A：単語をきちんとしたで音で発話する能力

第1問B：単語を正しいアクセントで発話する能力

第1問C：会話の中で音声の強弱を判断する能力

第2問B：対話の流れを正確に読み取り、相手の意図している事柄を把握する能力

第3問A：意味がわからない表現でも、全体の流れから意味を類推する能力

第3問B：発言の内容を要約する能力

第5問：会話の内容からわかる情報を的確に引き出す能力

が例年通り求められている。

また読解力では、

第3問C：文章の構成を、パラグラフを単位として論理的に思考する能力

第4問：図表を参考にして文章を正確に読み取

る能力

第6問：登場人物の心境も考えあわせ、物語の筋や流れを正確に追いながら長文を読み取る能力

が試される。いずれも文章の全体的な流れをつかんだ上での確かな情報を読み取る日頃の学習姿勢が問われる。

長文問題の第4問、第5問、第6問の総語数は昨年度より300語弱増加した。時間はかかるであろうが、素直で読みやすく、難易度は例年通りそれほど高くない。

2. 具体的内容分析

<第1問>

形式、配点ともに昨年度と大きく変わった。

A 発音 (6点：解答数3)

単語一つ一つの発音を問う問題が十数年ぶりに復活した。次問のアクセントにも言えるが、いわゆるカタカナ英語の発音やアクセントに引きずられないようにしたい。

B アクセント (4点：解答数2)

単語一つ一つのアクセントを問う基本的な問題。一つの問で全て3音節以上の12語のアクセントが問われる。いずれも基本的な語で、アクセントのルール (-ical, -logy, -tionのアクセントの位置) さえ知っていれば解ける問題もある。

C 発話の強勢の意図 (9点：解答数3)

新傾向の出題形式。ある語が強く発音される場合の話者の意図を判断する問題。

強く発音される語と対応する情報 (What ~? と~what you just said. [問]) を選択肢

の中から選び出す力が問われる。

<第2問>

形式は昨年と変わらなかったが、A、Bの配点が増加した。

A 語彙、語法、文法 (22点：解答数11)

語彙、動詞の語法・構文、文法、イディオムを判断する問題。動詞の語法を問う問題 (remain + 形容詞 [問6]、insist + on + 意味上の主語 + ~ing [問8]) は昨年度に引き続き出題されている。単語自体の定義問題はなくなり、語法やコロケーションの力を併せて要求する問題 (in case [問9]、by way of [問10]、have a (closer) look at [問11]) が目立つ。語彙、語法の配点が文法よりも高くなっているが、語法の問題にしても基本にあるのは文法であることを忘れてはならない。

B 対話文完成 (12点：解答数3)

対話文を完成させる問題。発話数は昨年度と同様3~4。空所の前後の台詞を参考に、会話がどのような流れになっているかを考える。全体の文脈の流れをしっかりとつかんだ上で会話特有の表現 (No, I'm afraid not. や I wondered if ~ [問1]、be my guest や It's on me. [問3]) にも慣れておきたい。

C 語句整序 (12点：解答数6)

各文の中に必ず含まれる語法・熟語 (seem to や get around [問1]、happen to や the same ~ as ... [問3]) のパターンを使い、意味の通った文を作る問題。熟語の知識だけでなく、動詞が来る場所を正確に捉えたり (He somehow の後に seems が来ることはあっても know が来ることはない [問1])、it が if 以下の内容を指す [問2] といった文法・構文の知識も必要とされる。

<第3問>

形式と小問の配点は昨年度と大きく変わったが、大問自体の配点は変化せず。本文の総語数は昨年度より大幅に増加した。

A 語やフレーズの意味類推 (8点：解答数2)

新傾向の出題形式。下線部の表現や単語の意味を全体から類推する問題。1パラグラフの中でどのように状況が推移しているのかを正確に読み取る力が問われる。

B 発言の意図の要約 (15点：解答数3)

空所の直前の発話を要約する問題。ある具体的事例を別の表現を使って要約している (using their eyes and hands や sports activities を physical responses で言い換え [空欄31]) ので、幅広い語彙とポイントを押さえる読解力が必要とされる。

C 適文補充 (18点：解答数3)

選択肢で与えられた文を指定された空欄に入れる問題。選択肢の文中、及び挿入箇所前後の代名詞や指示語、接続する語(句)に気をつけ、論が正しく展開するよう当てはめてゆく。「単語→文→段落→全体の構成」を捉えるためには、各文を読み取る力と大きな視野で流れを捉える力の両方が必要となる。

<第4問> (30点：解答数5)

図表読み取り読解問題。昨年度の1問が小問2つに分かれた。解答数は昨年度と同じだが、配点は35から30に減少した。2問に分かれたため、本文の語数は昨年度より約150語増加した。

図表を参考に、展開される論からの確な情報を得る力が問われる。例年は3~4項目が比較対照されるが、今年度は6項目が比較される説明文になっている。図表があるといっても、あくまでも本文を正確に読み取る力が基本となる。図表を細かく読み取る力は依然要求される (fruit juices は80年代後半より約1/4の減少)。

<第5問> (24点：解答数4)

会話文読解問題。昨年度の1問が小問2つに分かれた。解答数は昨年度と同じだが、配点は32から24に減少した。2問に分かれたため、本文の語数は昨年度より100語強増加した。また話者の数は2人に減ったが、話の中に別の2人が登場する。

質問に答える問題 [A問1] や空所補充問題 [B問2] では、本文に述べられている内容を正確に掴む情報処理能力が問われる。

イラストを選ぶ問題 [A問2] では本文の途中で選んでしまうことのないように。今年度は違うが、話の展開次第では、ある一文だけで判断すると誤った答えを導いてしまう可能性もある。一つ一つの事項を最後まで順を追って確認していく慎重さが要求される。

<第6問> (43点：解答数8)

長文読解問題。解答数は昨年度と変わらなかったが、配点は2点減少した。本文の総語数は昨年度とほぼ同じ。

物語文を読んで質問に答える問題〔問A〕と内容一致問題〔問B〕の2種類。物語ではあるが、現在と過去の回想を含めた場の転換に注意する必要がある。登場人物の細かな心情が問われる（直接的には本文には書かれていない）問題〔A問1〕もあるので、会話や話の展開からより深い読み方ができる力を養っておきたい。また、正解の選択肢は本文に載っていない単語(表現)で求められる場合も多いので、基本的な類義語力も必要とされる。

3. 昨年度と変化のあった点

- ①総語数が2割程度増加した。
- ②大問1、2で配点が増加し、大問4、5、6で減少した。それに伴い、設問数が全体で3つ増加した。
- ③単語の発音問題（第1問A）が復活した。
- ④アクセント問題（第1問B）が単独の語で問われた。
 - ③、④ともに、正解にたどりつくまでに確認する語数が多い（Aは12語、Bは24語）ので、正確かつ迅速に行きたい。
- ⑤文法問題より語彙、語法問題（第2問A）の割合が増えた。

コミュニケーション能力重視の現れであろうフレーズ、コロケーション関連の知識が要求される問題は昨年度増加したが、今年度はさらに増えた（actionsとactivitiesの違い〔問2〕、be prejudiced against〔問4〕）。日頃から英英辞典を使い、英和や和英辞典ではわかりにくい英語特有のニュアンス、また日本語では区別がなくても英語には存在する類義語の違いについて関心を持たせたい。

4. 新傾向の点

- ①発話の強勢の意図を問う問題（第1問C）が新たな形式で出題された。
- ②1パラグラフの中で単語やフレーズの意味を類推する問題（第3問A）が出題された。
- ③発言の意図の要約（第3問B）が出題された。

- ④図表読み取り読解問題（第4問B）で、日常生活で目にする事の多い広告（今年度は旅行パンフレット）から必要な情報を取り出す問題が出題された。

5. 日頃の学習で大切なこと

- ①多面的に語彙を増やす。

ただ単に単語の意味だけを覚えるというのではなく、英語での定義、反意語、同義語、接頭辞・接尾辞、品詞の転換など、語彙を様々なやり方で多面的に増やしたい。語彙に関連性を持たせると未知の語に遭遇したときにも想像力を働かせて雰囲気だけでもなんとか掴めるようになる。
- ②語と語のつながり（語法、Collocation）に関心を持つ。

ある単語を頭に入れる際、その語とつながりのある英語特有の表現も一緒に身に付けたい。ある単語が出てきたら次にどういう語を伴う場合が多いのか気をつける習慣を身に付けておきたい。

- ③英語を聞き、自ら口にする。

リスニング試験対策のみならず、発音、アクセント、強勢、構文（主語と動詞の区切れ等）に注意を払って日頃から英語を聞き、音読をすることが大切である。能動的に音読をするためには、ただ音をなぞるだけではなく、内容を理解する必要があるし、何回も繰り返して読み込んでゆけば、なによりも英語の音に対する興味、関心が増すはずである。
- ④論理展開を重視した読解力を養う。

どんな読み物でも最後まで通して読み、論の展開がどのようになっているかをまず考える。全体の論調を捉えてから各段落、各文の読み取りに入る。一部にこだわり過ぎて「木を見て森を見ず」にならぬよう大きな視野を養えば、それがより深い内容理解につながる。

- ⑤すべてがわからなくてもよしとする。

センター試験では、難しい単語が使われていても、別の箇所での説明が異なる表現で述べられることが多い。リスニングでもそうであるが、一つ一つの文を完璧に理解できなくとも、わからない箇所を周囲や全体から類推する力を付けておけば対応できることを確認したい。

II 2007年度センター試験の分析と対応 [リスニング]

1. 全体的な傾向

昨年度初めて取り入れられたリスニング問題とほぼ同じレベルの出題がされた。読み上げ速度は昨年度130～150WPM、今年度は150～170WPMと少し速くなったが、ナチュラルな感じであり、速すぎる感はない。内容はいずれも生徒の日常生活や学校生活の中で起こりうる身近な話題がテーマになっている。出題形式、解答数、配点はいずれも昨年度と同じであるが、読まれる総語数は昨年度よりも増加し、平均点は約4点下がった。

2. 具体的内容分析

<第1問>対話ビジュアル (12点：解答数6)

❖ 2人の対話を聞き、イラスト、数字、語句を選択する

❖ 各対話の総語数：20～30語前後

イラストや数字を見ながら放送を聞く。最初の台詞で状況を大まかに把握し、求められる情報を的確に探し出す。キーワードは2～4番目の台詞に出てくる。対話に出てくる語(句)や数字が全て答えになるとは限らないし、計算する必要があったり(5:30+half an hour〔問1〕や30+20=50〔問4〕)、別の表現に言い換えられて解答が述べられている場合にも注意する。

<第2問>対話応答補充 (12点：解答数7)

❖ 対話を聞き、最後の発言に対する相手の応答を選択する

❖ 各対話の語数：20弱～30語

問13

Man: Do you have any plans for the winter holidays?

Woman: Yes, I'm going to go skiing at White Mountain with some friends.

Man: Really? Do you think there will be enough snow?

選択肢

- ① Yes, it's been warm and dry recently.
- ② Yes, it's never crowded.
- ③ Yes, my friends are all good skiers.

④ Yes, they got a lot a few days ago.

相手の質問した(述べた)ことへの自然な反応を考える。普通の会話はいつも相手への質問で終わる訳ではないように、相手の応答の前の台詞が必ずしも質問形になっていない場合もあることを覚えておく。使われている接続詞や代名詞(選択肢④のthey)にも注意を払い、状況理解に努めたい。

<第3問A>対話内容Q&A (6点：解答数3)

❖ 対話を聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

❖ 各対話の語数：40～50語前後

問16

Man: It's a beautiful day. Let's go fishing.

Woman: Sounds great, Dad. Oh, before we go to the river, can we take my tennis racket to the shop to get it repaired?

Man: But it's closed because today's a holiday, remember?

Woman: Oh, yeah, that's right. OK, let's go.

質問: Where will the father and daughter go now?

選択肢

- ① The fish market.
- ② The repair shop.
- ③ The river.
- ④ The tennis court.

5W1Hで始まる質問の答えを対話から探す。対話を最後まで聞き、状況や流れの変化をきちんと捉える。事前に質問文から登場人物の名前や間柄等を頭に入れ、最初の台詞を聞いて場面が想像できるようになりたい。ただし〔問14〕のように、解答が一番最初の台詞に含まれている場合や、最初に出てきた情報に変更が生じたりする場合もあるので、順を追って最後まで聞き通して確認する慎重さが欲しい。

<第3問B>対話ビジュアル (6点：解答数3)

❖ 対話を聞き、その内容からわかることを表の空所に埋める

❖ 対話の総語数：約150語

聞き得た情報を順に図表に当てはめてゆく。選択肢そのままの語が読まれ、位置を表す語句 (on the opposite、under、by、on the other side of、in the corner、in the middle of、against、farthest from、on top of) で場所を確定していく。情報は時間の推移順に出てくるが、最初に出てきた情報が状況により変化する場合もあるので注意を要する。

<第4問A>

Short Passage 内容Q&A (6点：解答数3)

❖ Short Passageを聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

❖ 各台詞の総語数：60～80語前後

問22

OK, Pat. Here's the medicine for your cold. There are two kinds. These yellow tablets are for your sore throat. Take two of them three times a day, after each meal. Take one of these green pills after meals only when you have a very high fever. They'll bring your temperature down to normal. They're strong, so take no more than three a day.

質問文から推測した状況をもとに、出てきた情報を一つ一つ積み重ねてゆき、求められる情報の所在を明らかにする。only when、if、butなど論理の展開に重要な鍵となる接続語(句)に注意する。100語弱のまとまった量を、ポイントを絞って聞くことに慣れておきたい。

<第4問B>放送番組内容Q&A (6点)

❖ 説明文を聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

❖ 説明文の語数：約180語

質問文で事前にどれだけの状況想定ができるかがポイント。あとは話の流れに沿って順に問題に当たってゆく。要求された情報を正確に取り出す力が要求されるが、読み上げ文のRecently, in order to find out if people's reading habits had changed since the Orange Prize was started, researchers asked a group of 100 British professors and writers about the novels they read. This group included both men and women. の箇所に〔問23〕と〔問24〕

両方の解答が集中している場合もあるので、メモを取りながら質問されるポイントをあらかじめ絞っておくことが必要である。また、1回目と2回目の読み上げの間に約40秒のポーズがあるが、できれば情報が出揃った段階で各問の答えに目星をつけておきたい。

3. 対応のポイント

①聞く前に状況・場面を想像する

事前に問題指示文、選択肢、イラスト等に目を通しておき、内容を推測しておく。聞く前に精神的なプレッシャーをできるだけ少なくすることも正しい聞き取りへの第1歩である。

②会話特有の表現に慣れる

話の展開が掴めれば自然に聞くことができるが、But that would be kind of expensive.〔第3問 問14〕のような会話特有の表現や、OK, Grandpa, except for writing.〔第3問 問15〕、How about the table?〔第3問B〕のように、主語や動詞が省略される表現に慣れておくことも必要である。

③対話の流れや方向性を掴む

最後の発言に対する相手の応答を考える場合(第2問)、答えとなる情報はそのまま与えられているわけではない。それまでの話の流れを理解し、これからどのような展開になるのかを推測する能力が求められる。

また、その他の問題でも、途中で展開が変わり、最初に出てきた情報が最後まで同じとは限らない。最後まで慎重に状況を確認したい。

④語彙を増やし、読解力をつける

リスニングと読解力には相関関係がある。知らない単語は聞き取ることができないし、ある程度の量を聞き取るためには論理の構成を掴む力が必要とされる。読解力を付ければ論の展開を推測したりポイントを掴むことも容易になる。